

## 多摩市長賞

### 税金の使い道

多摩市立落合中学校

三学年 高橋 星菜

先日、国立科学博物館がクラウドファンディングを開始したというニュースを見ました。国立は、国が直接管理する施設に冠される名称であり、クラウドファンディングとは、インターネットを通してやりたいことを発信し、支援者から資金を募るしくみのことです。国が運営しているはずなのに、資金を調達しなければならぬとはどういうことだ？と疑問を感じ、調べてみることにしました。

まず、国立科学博物館、通称科博がなぜクラウドファンディングを開始したのかについてです。理由としては、コロナ禍での入場者の減少や、光熱費の高騰などで運営の危機に陥ったことがあげられています。科博は完全に国が運営している施設ではなく、独立行政法人という機関で、国が考えたものを実行する場所です。運営するための財源の八割が国からの支援金である運営費交付金で、残る二割が来館者による入館料などとなっています。入館料はコロナによる来館者数の減少により、5分の1程度まで落ちこんだ年もありました。大部分を占める運営費交付金も、近年は減少傾向にあるようです。運営費が少なくなっていく中での、ウクライナ侵攻による光熱費の高騰。このような出来事がクラウドファンディングの背景にありました。科博は500万点以上もの幅広い分野の標本、資料を有しており、多様なコレクションを保管するために

は、適切な温度、湿度等の管理が求められます。科博はこれまでに三度のクラウドファンディングを行っていますが、どれも独立したプロジェクトでした。しかし今回は収集や保管といった、博物館としての役割の根幹にかかる費用を募るためのものなのです。いくら運営が困難になったからといっても、標本、資料を保管するための費用は国民ではなく、国が出すべきものなのでは、と感じました。標本、資料は博物館の命であると同時に地球の宝です。クラウドファンディングで集まった資金は、研究費用にもなっています。研究、保管という大切な事業の存続を国民まかせにしていることに、とても驚きました。

中学生である私が調べ、理解し、考えることができたのはここまでです。インターネットで検索することしかできず、難しい言葉も多く、完全には理解できていないため不確かな情報もあるかもしれません。でも可能な限り正確なことを書いたつもりです。私が調べた情報が正しいと信じたうえで私が思ったことは、「本当に税金の正しい使い方ができているのか？」ということです。普段あまり意識することのない税金の使い道ですが、私たちが国のためだと思って払っている税金の一部が、もしかしたら無駄になっているかもしれないと考えると少し不安を感じます。私たちの生活を支えている「税」が、どのように、どんなものに使われているのか、今一度学んでみたいなと思いました。